

令和6年度 第3回 静岡県立浜北西高等学校 学校運営協議会 議事録

1 日時 令和6年12月16日(月) 午後2時から3時15分まで

2 場所 静岡県立浜北西高等学校 会議室

3 出席者(委員、敬称略)

梅林欽哉(元小学校・中学校管理職)、阿部卓也(静岡県議会議員)、
横田みどり(横田整形外科婦長)、中津川智美(常葉大学経営学部教授)、
金島徹(浜名区調整官)、森下晃行(農業起業家/TATSUJIN株式会社)、
松本幸範(浜北国際交流協会副会長)

学校関係者

邑田聡一(校長)、小室桜子(副校長)、伊藤正徳(教頭)、中村明江(事務長)、
後藤潤一(教務課長)、村松隆利(進路課長)、山本直子(研修課長)

4 議事

(1) 校長挨拶

(2) 学校から

ア アンケート結果(教頭)

- ・専門家によれば、AよくあてはまるとBほぼあてはまるの合計が80%あれば、ほぼ合格点と聞いた。そのため、A+Bが80%以上は無色とし、70%台を黄色、70%以下を赤色で示した。昨年より顕著に上昇したところは桃色とした。
- ・「復習をして学習内容の定着に努めている」51%、「毎日家庭学習に取り組んでいる」43%、「手帳を活用して先を見通した行動や計画性のある学習ができている」61%、「時間を管理し、家庭学習の開始時間を守ることができている」57%と、学習に関する生徒の自己評価が低い。
- ・「交通ルール・マナーを守っている」99%と生徒の自己評価は高いが、実際に朝の通学状況を見ているとそれ程でもなく、意識にずれがあるように感じている。
- ・保護者アンケートは75%を切るものがなく、おおむね評価いただいている。

イ 研修課から(研修課長)

- ・浜北国際交流協会と連携し、1年の夏季課題に、「国際理解レポート」(A3)を課している。終業式に会長にお越しいただき、優秀者の表彰式を行う予定。
- ・AFS(アジアの架け橋)事業で、フィリピンから4カ月間留学生がきた。留学生が、「自分がこんなに成長することに驚いた」と最後に話してくれた。生徒もすごく刺激を受け、国際交流はあたらめて大事だと感じている。

ウ 進路課から(進路課長)

- ・昨年より四大志望者が増加。現時点で、国公立大学に1名合格(諏訪東京理科大)している。これから受験する生徒は76名いる。
- ・近年、総合型や学校推薦型入試利用者が増加している。今年は、四大志望者の85%が利用した。来年度は、小論文対策などを行っていく。

(3) 協議

ア 家庭学習について

- ・なぜ家庭学習をしないのか、その原因について調査はしているか？
→調査していない。勉強しなくても授業やテストも何とかなる生徒が多い。小テストや学習時間の把握・声掛けなど、教員側の工夫次第で学習時間は増やせると考えている。来年度以降、対策を講じたい。
- ・ゲーム漬けの生徒は一部いる。ゲームで睡眠時間が2時間という生徒がいた。
- ・自宅以外（塾やファミレス等）での勉強も学習時間に入れてよいか？
→入れている。アンケート文面に記載はないが、担任が説明している。
- ・分かりづらい。アンケートに授業以外の学習も含むと記載したほうが良い。
- ・勉強をやるプラス効果が感じられるフィードバックがあるといいが。
→模試の過去問を解かせると、模試の結果が伸びるので、やらせてみたい。
- ・家庭学習は偏差値に比例する傾向があるので、あまり問題視すべきではない。
- ・「探究の日」で生徒と接してみて、探究心がある生徒が多い。宿題としてではなく、自分で調べてみてと投げかける。そして、調べてこないと授業が進まない状況を作れば、生徒は真面目で素直なので、やるようになるのではないか。
- ・少し努力すれば進級できるが、ハイレベルな学生と張り合おうとはしない。目標が低く、学ぶ意味がはっきりしない、学び方が分からない生徒が一定数いる。そういう生徒には、個や集団にあった働きかけをすると効果があるのではないか。高校生にそこまでする必要はあるかとも思うが、生徒が興味を示しそうなところを提示し、ここを勉強するといいいよと投げかけたらどうか。
- ・家庭学習の定義が曖昧でよく分からない。5教科を学ぶことだけとするのか、将来の自己実現に向けて何かすることも含めてよいのか。ゲームやネットなど色々な誘惑があるなか、耐えて、とにかく毎日勉強しろと言うのは苦痛。勉強時間が少ない＝悪ではない。かけた時間より、やった内容が重要と考える。
→家庭学習に関する設問内容を改善・工夫する。
- ・テストや受験よりもう少し広い目線で、「学ぶ」とはこういうことだと、折に触れて生徒へ話をしてほしい。
- ・大学の就職支援に関わっているが、就職試験で重要なのは「基礎学力」。「基礎学力」と大学で学ぶ「専門性」は違う。大学合格後も最後まで高校の学習を頑張るよう、生徒にはお伝えしたい。

イ 進路に関するアンケート結果

- ・「将来に対して夢や希望をもっている」71%と数値が低いですが、学年別に数値を出したら、また違ったものが見えると思う。

ウ 交通マナーについて

- ・「交通ルール・マナーを守る」99%のアンケート結果は、実際とずれていないと思う。自転車の並べ方もいいし、交通マナーも以前と比べるととてもいい。
- ・昔、北西生が集団で自転車に乗っていて飛び出したことがある。すぐに呼び止め、その場で叱った。最近は、すぐに学校へ電話する大人が多いが、その場で注意したほうが本当は子供のためにはなるのと思う。

エ チャレンジ授業について

- ・チャレンジ授業1人1回の実施は達成したが、見学2回が達成できなかったため、自己評価がBとのこと。見学2回は推進しなければいけないことなのか。
→自己研鑽のため推進している。出張せず、校内で学び合える、良い研修。
- ・先生方は頑張っているのですが、負担なら他の方法に変えてもいいのではないかと。
- ・探究学習はチームを組まないといけないが、浜北西はうまく回っている。探究学習もチャレンジ授業も下準備が大変なので、無理をしなくていいと思う。
- ・どのように見学者をカウントしているのか。
→感想カードを授業者に渡してもらっているが、研修課で全て把握しているわけではない。カウントがきちんと行えておらず、担当者の感覚である。
- ・5分でも見学したら、カウントしてもよいのではないかと。
- ・チラッと見るのであれば10回は見学した。他教科の授業を見るのは面白い。
- ・授業の空気感が分かるのは大切。チャレンジ授業は成功していると言える。
→見学のカウントの仕方を、来年度検討する。

オ 国際交流について

- ・ドイツに長年住んでいた経験から、日本では子どもを可愛がり、甘やかし過ぎると思う。しつけや教育が一番大事で、子どもの頃から各家庭で行うというのが基本である。色んな意味で、日本と世界の常識は違うと感じることが多い。
- ・浜北西高校で国際交流をこれからも重視するのであれば、浜北国際交流協会の協力は欠かせない。多様な考え方があるということを知るだけでも全然違う。
- ・生徒アンケートで「他の学校にはない魅力や特色がある」が75%と低めだが、国際交流を魅力として打ち出せばよい。今年は留学生が来て、来年はタイへ行く等の単発ではなく、浜北西高校の国際交流は、こういう教育をやるという体系立てが必要。語学だけでなく、地域の海外赴任された方の話を聞く等、長く続く特色化を作り出したい。

カ その他

- ・弓道部を秋に見学させていただいた。生徒達が大変礼儀正しく、かといって空気がピリピリしすぎず、見学する自分を温かく迎え入れ、なおかつ練習ペースは崩さず真面目に活動しており、大変感心した。部員数が多い割に練習場が狭い点、トイレが近くにない点が不便そうだったので、配慮願いたい。
- ・アーロン君の感想文で、「弓道部で多くの友人に出会い、滞在中ずっと支えてくれた」とある。本当に素晴らしいことなので、生徒達を褒めてあげてほしい。
- ・生徒はしっかりした考えと素直さを持っており、これは財産。卒業後どうやってお金を稼いで生きていくか、そこをしっかりとつかめる生徒に育ててほしい。